

平成24年度研究成果中間報告書〈平成24・25年度教育課程研究指定校事業〉

都道府県，地域 幼稚園・学校名 (園児，児童数)	徳島県，藍住町 藍住町立藍住北幼稚園・藍住北小学校 藍住町立藍住南幼稚園・藍住南小学校 藍住町立藍住西幼稚園・藍住西小学校 藍住町立藍住東幼稚園・藍住東小学校	(170人，482人) (206人，651人) (173人，604人) (130人，389人)
--------------------------------	---	--

(本研究に係る問い合わせ先)

名称，所在地：藍住町教育委員会，徳島県板野郡藍住町奥野字矢上前52番地1

電話番号：088-637-3128

メールアドレス：kyouiku@town.aizumi.tokushima.jp

研究内容等を閲覧できるホームページのURL：<http://www.town.aizumi.tokushima.jp/>

【研究成果のポイント】

- 研究課題番号：2 (2) 幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続
- 研究のキーワード
 - ・「育てたい子どもの姿」の共有
 - ・幼稚園教育と小学校教育についての相互理解と充実
 - ・接続期における教育課程や指導の工夫
 - ・幼小合同活動の充実
- 研究成果のポイント
 - ・小1プロブレムの解消
 - ・幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続
 - ・幼小の8年間を見通した取組の推進と教職員の意識改革

【研究の目的，研究内容】

(1) 研究主題

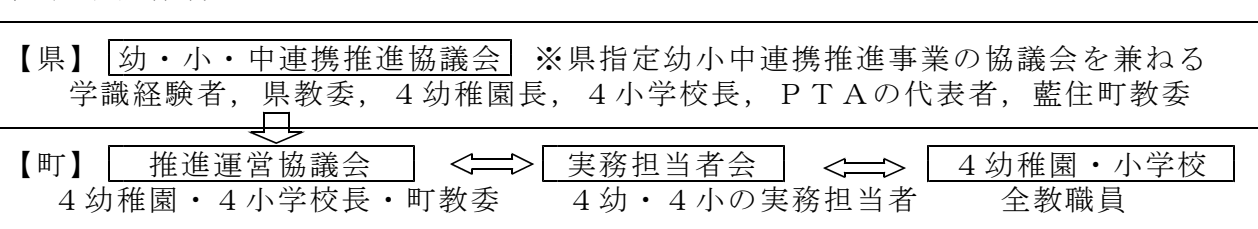
幼稚園教育と小学校教育の滑らかな接続の在り方について
～学びの芽生えを育て，自覚的な学びへとつなぐ教育課程や指導方法の在り方について～

(2) 研究主題設定の理由

藍住町は元来教育を大切にする風土のある地域であり，幼・小・中が連携しながら町全体で健やかな子どもの育成に取り組んできた。しかし，近年，核家族化や急激な人口増による地域の共同体意識の希薄化や子どもの育ちの変化がみられ，様々な問題が指摘されるようになった。そこで，子どもたちのかかえる問題を解決するため，8年間の子どもの「学び」や「育ち」を見通した教育実践を展開したいと考えた。

幼小で一貫した「育てたい子どもの姿」を共有し，その実現に向けて子どもの発達と学びの連続性を踏まえ，幼稚園から小学校へと滑らかにつなぐ教育課程や指導方法の在り方について探り実践する。幼稚園では遊びの中で育まれる「学びの芽生え」を意識した保育の充実を図り，小学校では「学びの芽生え」を生かし「自覚的な学び」へと移行していく指導を充実させる。新入学児童が期待と意欲をもって小学校での生活や学習に取り組むことができる接続期の指導の在り方を探る。このことが，心身ともに健やかな藍住町の子どもの育成を図ることにつながると考え，本主題を設定した。

(3) 研究体制



(4) 1年間の主な取組の経過

平成24年度	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究内容・方法・組織等についての協議と共通理解 2. 幼小連携・接続の理念や先進地の取組についての研修 3. 各園・校における研究推進 <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画作成・合同研修会や相互参観の実施 ・「育てたい子どもの姿」共有 ・交流計画の見直しと実施 ・保護者アンケートの実施と集計 ・スタートカリキュラム試案作成と実施 ・アプローチカリキュラムの試案検討
--------	--

- ・「育てたい子どもの姿」に基づいた指導内容や方法の検討と実施
- 4. 合同研究会の実施と視察訪問による指導
 - ・合同活動参観と研究協議・取組中間報告と共有・教科調査官による指導
- 5. 24年度取組成果の検証と25年度取組に向けての協議

(5) 具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

<研究の内容と方法>

- ①「育てたい子どもの姿」を共有し，育ちを見取り，見通しをもった指導を行う。
 - ・「育てたい子どもの姿」の共有・幼小それぞれにおける指導方法の検討と共通理解
 - ・育ちのつながりや見通しをもった指導の展開
- ②幼稚園教育と小学校教育についての相互理解を図り，それぞれの教育の独自性と発達や学びの連続性を踏まえた指導の充実を図る。
 - ・連携の体制や組織づくりと合同研修会等の実施
 - ・幼稚園教育と小学校教育についての相互理解
 - ・発達や学びの連続性を踏まえた幼小それぞれの教育の充実
- ③子どもの発達や学びの連続性を踏まえ，接続期における指導の在り方を探る。
 - ・小学校における育ちや学びを意識した5歳児後半における教育課程や指導の工夫
 - ・幼稚園における育ちや学びを意識した入学当初の教育課程や指導の工夫
 - ・「スタートカリキュラム」「アプローチカリキュラム」の作成と実施
- ④幼小合同活動を実施し，互惠性のある活動における子どもの育ちや学びを検証し，合同活動を充実させる。
 - ・合同活動の計画実施
 - ・活動後のカンファレンスによる子どもの育ちや学びの共有
 - ・合同活動の充実を図る工夫や年間計画の充実

<研究を進める上での工夫点・特色等>

- ①町内全小学校区の4幼・4小における取組と成果の共有
 - ・4幼・4小の特徴を生かした取組の推進
 - ・成果の共有による町全体の研究推進
- ②幼稚園教諭の小学校派遣（1校のみ）による研究の推進
 - ・「スタートカリキュラム」の先行実施
 - ・お互いの教育に対する相互理解の促進
- ③中学校も見通した取組（県指定幼小中推進事業の実施）
 - ・11年間を見通した「育てたい子どもの姿」を視点とした取組の推進

【研究成果とその意義等】

(1) 研究成果

- ①「育てたい子どもの姿」の共有

各幼小で「育てたい子どもの姿」を設定することで，子どもの育ちの課題が明確になり，取組の視点が焦点化された。「伝え合う力」を育むにしても，幼稚園と小学校では「伝え合う」ことの捉え方やその指導方法に違いがあることに協議の中で気付いた。違いを知り，それぞれの教育の独自性を生かした取組を進める第一歩となった。
- ②連携の組織づくりと相互理解

相互参観や合同研修会，担当者の話合い等を通じて，教師同士のつながりができ，取組が進んだ。他園・校の取組に刺激を受けたり，自園・校の独自性を大事にしたりするなど，町全体での取組が効果をあげている。幼稚園教員の派遣を実施している園・校では，幼稚園教育と小学校教育の指導内容や方法についての理解がより進んだ。
- ③生活の違いに配慮したスタートカリキュラム「すまいるタイム」の実施

新入学児の安心感，活動へのスムーズな移行を目指し，登校後に自由遊びの時間を設定した。そのことが，教師の児童理解やよりよい集団づくりにつながった。保護者の安心感も大きい。接続期における「成長にとって必要な段差」と「配慮が必要な段差」を子どもの姿から見極めていくことの必要性が確認された。
- ④合同活動の実施と事前事後の話合い

事前事後の話合いにより，ねらいが明確になり活動が充実した。子どもの姿を基に話し合うことで幼児・児童理解が進み，お互いの教育に対する相互理解も深まった。

(2) 研究成果の意義等

- 「育てたい子どもの姿」を設定することによる取組の視点の明確化と共有
- 人事交流による研究推進の効果（実感をともなった相互理解・先行実践）

(3) 研究2年目へ向けての課題と改善

- ①「育てたい子どもの姿」を視点とした8年間を見通す指導内容・指導方法の検討
- ②相互理解に基づく発達や学びの連続性を踏まえた幼小それぞれの教育の充実
- ③接続期における教育課程や指導の工夫と接続カリキュラムの作成